

平成 21年 6月 25日現在

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：平成 19 年度～20 年度

課題番号：19710223

研究課題名 (和文) スポーツ参加・達成における女性間の差異の比較研究

研究課題名 (英文) A Comparative Research on Differences among Women
in Sport Participation and Achievement

研究代表者

水 野 英 莉

研究成果の概要：

本研究は、スポーツ参加・達成における女性間の差異とその差異を生み出す社会的要因・過程を明らかにすることを目的とし、日本・米国・豪州の三か国においてプロとして活動する女子サーフィン選手へのフィールドワークから比較分析を行なった。サーフィンを対象とした理由は、サブカルチャーとして看過されてきたマイナースポーツは、女性が参加するための環境が十分には整備されておらず、女性間の差異がさらに先鋭化したかたちで表出する場だからである。データの収集は、参与観察法、インタビュー、文献・記録収集によって行ない、女子選手のキャリアをてがかりに、現状でみられる選手間の差異を把握、そしてその背景要因となる部分を抽出するという形で分析した。

その結果、女子選手のスポーツ参加・達成は、豪州で最も高く、次いで、米国、日本の順となることがわかった。キャリアの差、参加・達成度を生み出す社会的要因は、以下の三つがあげられる。ひとつめはサーフィンというスポーツ文化の地域浸透度の違い、ふたつめは地域ごとのスポーツ・教育におけるジェンダー体制の違い、そして地域ごとのサーフィン文化におけるジェンダー体制の違いである。スポーツを政策として積極的に取り入れ、スポーツ参加率が男女ともに高い数値を示す豪州が、各地域の女性の比較においても最もスポーツ参加・達成度が高くなっていった。このことは、すべての選手の努力が公平に報われ、結果の平等が達成されるためには、一選手の努力だけでなく、制度上の変革が必要なことを示唆している。

この研究は、グローバル化の中で格差が拡大する社会構造の中で、複雑さを増す女性間の権力関係を詳細に描き出し、スポーツに関わる女性の研究領域に女性間の差異という視点を持ち込み、またサーフィンという先行研究が極めて少ない対象を主題化したことで、スポーツのジェンダー研究に新しい視座を提供している。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
19年度	1,000,000円	0円	1,000,000円
20年度	600,000円	180,000円	780,000円
年度			
年度			
年度			
総計	1,600,000円	180,000円	1,780,000円

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：ジェンダー

キーワード：ジェンダー、比較文化、女性間の差異、スポーツ、サーフィン

1. 研究開始当初の背景

1980年代以降、ジェンダー・フェミニズム研究では女性間の差異への注意が払われるようになった。スポーツの場合でも、競技環境に恵まれた地域の女性とそうでない地域の女性との間には、達成において大きな格差が存在する。女性を被抑圧者として一枚岩としてとらえることは現実に即さないと考えられるようになった。

しかしながら、その差異がどのようなもので、どのような要素が関わっているかなどの詳細な検討はほとんどなされていない。特に日本のスポーツ研究においては、従来のように男女の差異に焦点化した研究が主流で、女性間の差異は主題化されることがなかった。

同時に、スポーツの研究では、観るスポーツや国家の意図と結びついた体育教育について盛んに論じられるものの、サブカルチャーとしてのスポーツはほとんど看過されていた。しかしながら、この種のマイナースポーツは、女性が参加するための環境が十分には整備されておらず、女性間の差異はさらに先鋭化したかたちで表出する場であると考えることができる。

スポーツのジェンダー研究においては、女性間の差異の主題化と、扱うスポーツ種目の偏りをあらためることが必要とされている。このふたつの課題を検討することは、すべての女性がスポーツ参加・達成をより公平な環境の中で実現するための一助となることが期待できるのである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、スポーツ参加・達成における女性間の差異とその差異を生み出す社会的要因・過程を明らかにすることにある。日本・米国・豪州の三か国においてプロとして活動する女子サーフィン選手へのフィールドワークから比較分析を行なうものである。

3. 研究の方法

研究は以下の三つの方法によって行なわれた。

1) 参与観察法による女子選手と彼女らをめ

ぐる具体的な状況の把握

2) 質問を定めたフォーマルインタビュー、および質問を定めず自由なやりとりを行なうインフォーマルインタビューによって、女子選手とその関係者(家族、組織関係者など)に、ライフヒストリーやサーフィンのキャリアの聞き取り

3) 対象国における女性とサーフィンをめぐる状況(関連法、制度、メディアなど)についての、文献、記録、資料の検索・収集

4. 研究成果

女子選手のキャリアをてがかりに、現状でみられる選手間の差異を把握、そしてその背景要因となる部分を抽出するという形で分析した。その結果、女子選手のスポーツ参加・達成は、豪州で最も高く、次いで、米国、日本の順となることがわかった。キャリアの差、参加・達成度を生み出す社会的要因は、以下の三つがあげられる。ひとつめはサーフィンというスポーツ文化の地域浸透度の違い、ふたつめは地域ごとのスポーツ・教育におけるジェンダー体制の違い、そして地域ごとのサーフィン文化におけるジェンダー体制の違いである。

スポーツを政策として積極的に取り入れ、スポーツ参加率が男女ともに高い数値を示す豪州が、各地域の女性の比較においても最もスポーツ参加・達成度が高くなっていた。このことは、すべての選手の努力が公平に報われ、結果の平等が達成されるためには、一選手の努力だけでなく、制度上の変革が必要なることを示唆している。日本のサーフィン組織内部および世界的な組織によってとられるべき方策を示し、成果を公表した。

従来のスポーツ研究のように、男女の差異に注目する研究では、年々拡大する女性間の差異を分析することができず、また性差だけでなく諸要因の関わり合いを視座に入れることができなかった。この研究は、グローバル化の中で格差が拡大する社会構造の中で、複雑さを増す女性間の権力関係を詳細に描き出し、スポーツに関わる女性の研究領域に女性間の差異という視点を持ち込み、またサーフィンという先行研究が極めて少ない対象を主題化したことで、スポーツのジェンダ

一研究に新しい視座を提供している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

水野英莉 「サーフィンのキャリアにおける女性間の差異—日本・アメリカ・オーストラリアの女子選手へのフィールドワークから—」、『スポーツとジェンダー研究』第8号 (査読中、2010年3月発行予定号)。

[学会発表] (計 3 件)

水野英莉 「スポーツ達成における女性間の差異—日・米の女子サーフィン選手の経験から」、第17回日本スポーツ社会学会、中京大学、2008年3月。

水野英莉 「女性間の差異と公平性の確保についての一考察—日・米・豪における女性プロサーファーの比較研究」、第7回日本スポーツとジェンダー学会、大阪府立女性総合センター、2008年7月。

水野英莉 「Differences Among Women in Sports: a case study of professional women surfers in Japan, the United States and Australia」、International Sociology of Sport Association World Congress 2008、京都大学、2008年7月。

[図書] (計 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

○取得状況 (計 件)

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

水 野 英 莉

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者